

SCOPE NEWS

CONTENTS

- 1 最近のSCOPEの動向
- 2 「第6回評議員会」「第22回理事会」の開催報告
- 3 SCOPE研究開発助成成果報告会の開催
- 4 2018年 欧州棧橋調査報告
- 5 港湾管理者の点検診断作業の効率化を支援！
～港湾施設維持管理支援システムCASPortに、
導入しやすい制度をご用意～
- 6 SCOPE 現場訪問
和歌山下津港海岸
(海南地区)海岸保全施設整備事業
- 7 SCOPEからのお知らせ

最近のSCOPEの動向

専務理事 大野 正人

人材の育成

SCOPEの経営の根幹は、港湾・空港の建設及び維持管理に関する技術力であり、港湾・空港事業を支援する技術力である。そして技術力はSCOPEで働いている人に宿っている。この技術力を継承することは大切なことであるが、このことは、人から人への技術やノウハウを伝えることであり、また、「立派な技術者」を育てることでもある。

どこの社会にも共通することだと思うが、人材を育成することは決して簡単ではない。人を雇えばよいということでもないし、必要な研修をすればよいというものでもない。上司が思うように人は動いてくれないし、育ってくれない。これは、親が思うように子供が育ってくれないもどかしさに似ているようにも思う。

人を働かせるということでは、山本五十六の語録に「やってみせ 言って聞かせて させてみて ほめてやらねば 人は動かじ」という有名な言葉がある。人を働かせるには、こまめで丁寧に対応しないと難しいのだと思うし、確かにこまですれば人は動くかもしれないが、これだけでは人は育たないのではないかとの疑問が残る。

学生時代の恩師は「^{さいたくどうじ}啐啄同時」という言葉をよく使われていた。「^{そつたくどうじ}啐啄同時」とも言うようだが、啐は雛が孵化する直前に卵の中から殻をつつくしぐさを表し、啄は親鳥が卵の外から殻をつついて破り雛が外に出やすくすることを言う。この啐と啄が同時であることが大切であり、雛が「啐」の行動を起こしていても親鳥が「啄」をしなければ力の弱い雛は殻を破ることができず死んでしまう。逆に雛が羽化する時期でないのに親鳥が「啄」の行動を起こしても、雛は死んでしまう。

若いころは、この言葉を聞くたびに自分の殻を破る力をつけること(啐)だけを考えていたが、今は「啄」のタイミングの難しさも感じるようになってきた。無理に外からつつきすぎると落ち込んだり、逆に反発したりすることになり、信頼関係が崩れることにもなりかねないからだ。

山本五十六の語録には、続きがある「話し合い 耳を傾け 承認し 任せてやらねば人は育たず」「やっている 姿を感謝で 見守って 信頼せねば 人は実らず」。信頼して任せ、自分で考えるように促すことが人材育成の基本かもしれない。もちろん信頼して任せたことの責任は取る覚悟が必要だ。

本年の6月21日の理事会で専務理事の役割を拝命しSCOPEの運営に当たらせていただくこととなった。SCOPEの職員の平均年齢は56歳であり、その一人一人が多くの経験と技術力を持っている。自分たちの今の技術力を過信することなく新しいことに挑むことは大切であるが、一方でそれぞれの経験や技術を次の世代に引き継ぐことも重要である。ただし職員の中に若い人はそれほど多くないこともあり、この技術をSCOPE内だけで継承していくという考えには限界がある。幸いにもSCOPEは様々な業務の中で官学民を問わず関係機関の技術者と接触する機会がある。港湾・空港の技術を継承し「立派な技術者」といえる人がSCOPE内に限らずSCOPE外(関係機関)でも育っていくために、何ができるのかを職員と一緒に考えていきたいと思う。



「第6回評議員会」「第22回理事会」の開催報告

総務課長 木崎 朋弘

平成30年度の評議員会を6月21日（木）尚友会館8階で開催しました。

午後3時30分からの評議員会は、評議員の互選により中村評議員が議長に選任され、「平成29年度事業報告・決算報告」他3件が審議され承認されました。その他として「平成30年度事業計画・収支予算」他を報告いたしました。内容は以下のとおりです。

【審議事項】

第1議案

「平成29年度事業報告及び決算報告について」 （第18回理事会承認案件）

- 1) 「平成29年度事業報告」について大野理事より、SCOPEの基本的な方針(1. 問題解決機能の充実・強化 2. 技術力の開発・継承と人材育成のさらなる充実) 5つの重点テーマ (1. 公共工事の品質確保・効率的実施 2. 適正な積算、効率的な施工 3. 適正な維持管理 4. 港湾区域への洋上風力発電の導入 5. ICTへの戦略的な取組み)に則り昨年度実施しました、1. 技術・システムに関する調査研究、2. 情報収集・提供、3. 技術、システムの普及・啓発、4. 審査・認定、5. 技術支援、について、具体的な事例をもとに説明を行いました。
- 2) 次に、岩本業務執行理事が「平成29年度決算報告」について、一般財団法人移行後5度目の決算であることや、昨年度決算額との比較等を説明しました。
稲村監事より監査結果について、適正に行なわれている旨の報告があり、採決の結果、全員異議がなく原案とおり承認されました。

※平成29年度の決算額の詳細は小誌59号もしくはホームページご参照

第2議案

「理事の選任について」

第21回理事会において審議され、本評議員会に推薦する新任理事候補者1名について、採決の結果、全員異議がなく原案とおり承認されました。併せて、非改選理事・監事について報告をいたしました。併せて、退任理事2名及び非改選理事7名、非改選監事2名について報告をいたしました。(敬称略)

新任理事：小平田 浩司

非改選理事：中尾 成邦、岩本 卓、大野 正人、縣 忠明、大橋 正和、大本 俊彦、松田 英三

非改選監事：稲村 肇、前田 博

退任 理事：岩崎 三日子、江河 直人

第3号議案

「評議員の選任について」

【評議員】

再任 評議員：小林 潔司氏、角田 光男氏

非改選評議員：磯部 雅彦氏、奥田 剛章氏、尾田 俊雄氏、善 功企氏、中村 英夫氏、吉野 源太郎氏、廻 洋子氏

【主な報告事項】

「平成30年度事業計画及び予算について」及び「公益目的支出計画実施報告書の件について」報告いたしました。

「平成30年度事業計画及び予算について」

- 1) 大野理事が「平成30年度は国土交通省の基本方針を踏まえ、SCOPEとして2つの基本的な方針 (1. 問題解決機能の充実・強化 2. 技術力の開発・継承と人材育成のさらなる充実) に則り、従来からの6事業を行なう事の説明を行いました。

- 2) 岩本業務執行理事が「平成30年度収支予算」についての説明を行いました。

(1) 平成30年度収支予算

平成30年度収支予算は当センターホームページご参照

「公益目的支出計画実施報告書の件について」

岩本業務執行理事がH30.6末に内閣府に申請する「公益目的財産額」に対する平成29年度決算で確定した公益目的支出額について説明をおこないました。

引き続き開催された第22回理事会では、次の2議案が審議され承認されました。

第1号議案「専務理事及び業務執行理事の選定の件」

第2号議案「専務理事及び業務執行理事の業務分担の決定の件」

第6回評議員会で新任された、小平田理事、非改選理事である、中尾理事、大野理事、岩本理事について、大野理事を専務理事・代表理事、小平田理事を業務執行理事に選任することについて提案され、採決の結果、全員異議なく提案どおり選任されました。なお、中尾理事長、岩本業務執行理事には変更はありません。

第1号議案・第2号議案で承認された、常勤理事の役割分担は以下のとおりです。

【常勤理事及び役割分担】

理事長（代表理事）中尾 成邦（経営全般）

専務理事（代表理事）大野 正人（組織運営全般）

業務執行理事 岩本 卓（財務会計担当）

業務執行理事 小平田 浩司（調査部、システム部、審査・認定部、洋上風力推進室）

今回の評議員会及び理事会の開催にご協力いただきました関係者の皆様に感謝を申し上げます。

SCOPE 研究開発助成成果報告会の開催

..... 建設マネジメント研究所 研究主幹 伊藤 晃

6月29日（金）に、「SCOPE 研究開発助成（平成29年度実施）成果報告会」を尚友会館8階会議室で開催しました。

当センター岩本業務執行理事の開会挨拶の後、「港湾、海岸及び空港の施設の健全度評価に関する研究」が3件、「建設副産物リサイクルに関する研究」、「公共施設の維持・管理に関する研究」がそれぞれ1件、最後に「20周年記念事業」が1件の合計6件について、研究者の皆様方から研究開発成果の報告をしていただきました。

数多くの港湾施設が整備された高度成長期から50年程度が経過し施設の老朽化が懸念されていることから、今回の報告では、施設の点検、健全度の評価、維持管理に関する研究テーマが多く、港湾を担当する技術者にとっても関心が深いテーマであったことから、多くの方にご出席いただき報告会を開催することができました。



会場

研究テーマ及び本報告会で発表いただいた方は、以下のとおりです。

【港湾、海岸及び空港の施設の健全度評価に関する研究】



栈橋上から実施可能なRC部材の局所振動試験と塩害に対する構造性能評価

東北大学大学院 工学研究科
松崎 裕 助教



常時微動を用いた臨海部に生じる空洞の検出方法に関する研究

神戸大学 都市安全研究センター
長尾 毅 教授



打撃振動測定によるPC栈橋の損傷モニタリング技術の開発

愛媛大学大学院 理工学研究科
森 伸一郎 准教授

【建設副産物リサイクルに関する研究】



防波堤耐津波性強化における浚渫土固化体の利用に関する研究

東京工業大学 環境・社会理工学院
笠間 清伸 准教授



【公共施設の維持・管理に関する研究】

UAVによる港湾施設点検の自動化を支援する高精度自己位置同定システムの開発

北海道大学大学院 工学研究院
江丸 貴紀 准教授

【20周年記念事業】



自律型水中ロボットと海底ステーションによる水中構造物の全自動・長期モニタリングシステム

東京大学 生産技術研究所
巻 俊宏 准教授

最後に当センターの大野専務理事からの講評では、本報告会に出席された皆様方に、研究者の方と連携するなどして実用化を目指していただきたいとのお願いをして閉会となりました。

報告の内容につきましては、これまでの研究成果を含め、当センターホームページの「研究開発助成」の

「研究開発助成の実績」に、「概要」、「報告書」、「発表資料」を掲載しておりますので、ご覧下さい。

発表していただいた研究者の皆様、ありがとうございました。来年も、多くの方々にご参加いただけることを願っております。

2018年 欧州栈橋調査報告

調査部 上席調査役 菅野 真弘

平成30年7月8日～16日の9日間、港湾整備に携わる法人の役割として、PIERS研究会2018欧州栈橋調査団（総勢17名）の一員となりベルギー、オランダ、ドイツの3カ国の栈橋の調査に参加してきました。

PIERS研究会（会長：古土井 光昭氏）は、これまで2013年～2015年にわたり英国の栈橋調査を3回行っており、その調査報告書をまとめるとともに、我が国の海岸の利用・整備について日本の8海岸でのケーススタディーを盛り込んだ「Pierを生かした海岸づくりの提案」とともに、4回／年の「PIERSフォーラム」を行うなどの活動を行ってきています。

今回は、初めて欧州本土の栈橋であり、英国とは異なる国での栈橋の整備の歴史や利用状況、周辺環境等の調査を行うことにより、日本の魅力ある海岸づくりを目指した、国内栈橋の計画・整備に生かせる新たな知見を得ることを目的としたものです。

調査対象栈橋数は、ベルギー（ブランケンベルヘ栈橋）：1本、オランダ（スヘフェニンゲン栈橋）：1本、ドイツ（リュージェン島〔ゲーレン栈橋、ゼリン栈橋、ピンツ栈橋〕、ウゼドム島〔ツィノヴィッチ栈橋、コサート栈橋、バンシン栈橋、ヘリングスドルフ栈橋、アールベック栈橋〕：8本の合計10本の栈橋でした。

主な現地写真及び栈橋の概要は次の通りです。

表：欧州調査栈橋の概要表

 ブランケンベルヘ栈橋 (ベルギー) ・栈橋延長：350m ・主要な付帯（付加）施設：レストラン、イベントホール、展示施設等 ・船舶係留施設：無	 スヘフェニンゲン栈橋 (オランダ) ・栈橋延長：382m ・主要な付帯（付加）施設：レストラン、展望台、物販施設、観覧車、バンジー・ジャンプ施設等 ・船舶係留施設：無
 ゲーレン栈橋 (ドイツ：リュージェン島) ・栈橋延長：350m ・主要な付帯（付加）施設：無 ・船舶係留施設：有	 ゼリン栈橋 (ドイツ：リュージェン島) ・栈橋延長：394m ・主要な付帯（付加）施設：レストラン、海中を見学する施設等 ・船舶係留施設：有
 ピンツ栈橋 (ドイツ：リュージェン島) ・栈橋延長：370m ・主要な付帯（付加）施設：無 ・船舶係留施設：有	 ツィノヴィッチ栈橋 (ドイツ：ウゼドム島) ・栈橋延長：315m ・主要な付帯（付加）施設：海中を見学する施設 ・船舶係留施設：有
 コサート栈橋 (ドイツ：ウゼドム島) ・栈橋延長：261m ・主要な付帯（付加）施設：無 ・船舶係留施設：有	 バンシン栈橋 (ドイツ：ウゼドム島) ・栈橋延長：285m ・主要な付帯（付加）施設：無 ・船舶係留施設：有
 ヘリングスドルフ栈橋 (ドイツ：ウゼドム島) ・栈橋延長：508m（ヨーロッパ大陸の栈橋の中で最長） ・主要な付帯（付加）施設：レストラン、物販施設等 ・船舶係留施設：有	 アールベック栈橋 (ドイツ：ウゼドム島) ・栈橋延長：280m（ドイツ最古の栈橋） ・主要な付帯（付加）施設：レストラン ・船舶係留施設：有

調査成果については、目標として年内を目途に報告書としてとりまとめ、発表会を開催する予定です。期待して頂ければと思います。

最後に、PIERS研究会のホームページアドレスを以下に記載致します。

魅力ある海岸づくりを通じた地域の活性化へのPIERS研究会の提言、英国栈橋の魅力、発表論文等、関心のある方は是非ご覧ください。

<http://www.piers.jp/>

港湾管理者の点検診断作業の効率化を支援！ ～港湾施設維持管理支援システムCASPortに、導入しやすい制度をご用意～



SCOPEでは、港湾施設のより効率的な維持管理を支援するためにCASPortを開発しました。当初、対象施設は栈橋、矢板式岸壁、重力式岸壁の3種類でしたが、対象施設に護岸や防波堤を追加し、さらに一般定期点検では標準的に実施される電位測定の実データ入力を可能にするなど、点検実務者のニーズに応えられるよう機能の充実を図ってきました。

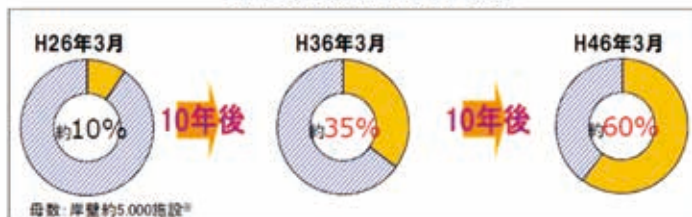
公共インフラである港湾施設の老朽化対策が喫緊の課題であるという共通認識のもと、まずは、施設の性能低下度を評価するための情報を得る点検診断が必要不可欠であることは知られていますが、技術者不足や維持管理に充当する予算が十分でないため、施設を目視点検して現況を把握することさえ十分に行えない状況にあります。SCOPEは、CASPortの普及によって、効率的な点検診断を可能とすることを通じて、港湾施設の老朽化という課題への対応を支えていきます。

そこで、SCOPEでは、点検診断実務の効率化と省力化に資するCASPortについて、より導入しやすい制度をご用意しました。

港湾施設を取り巻く現状と課題

- ① 港湾施設における供用開始後50年以上経過する割合が20年後には60%に急激に増加

＜供用後50年以上経過する岸壁の割合＞



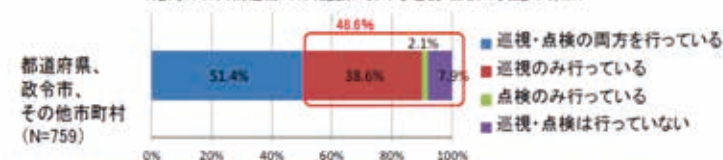
- ② 老朽化などに伴い、港湾施設の約2割において不具合が発生。

＜港湾施設の集中点検結果＞



- ③ 技術力の低下、技術者不足等により施設点検が十分に実施できていない地方公共団体の割合は約5割。

＜港湾の公共構造物・公共施設における巡視・点検の実施の有無＞



※社会資本整備審議会交通政策審議会「今後の社会資本の維持管理・更新のあり方について答申」(平成25年12月)より抜粋【地方自治体に対するアンケート調査(平成24年実施)】

【1】6か月程度の無料モニター制度の整備

CASPortの簡便性や操作性を実感していただくと同時に、改善点等の意見を聴取することを目的とし、CASPort（アプリケーション）及び現場用端末（タブレット）を無料で貸与する制度です。

【2】複数セット購入割引

CASPortを複数セット購入していただく場合の割引制度です。

購入セット数	初期費用（1セットあたり）	年次利用料金（1セットあたり）
1セット	45万円＋消費税	10万円＋消費税
2～4セット目	15万円＋消費税	9万円＋消費税
5セット目以上	10万円＋消費税	

（※注）CASPortのセットにはハードウェア（事務所用端末（PC）、現場用端末（タブレット））は含まれません。

【初期費用の試算例】

3セット購入の場合・・・45万円×（1セット）＋15万円×（2セット）＝75万円（＋消費税）

7セット購入の場合・・・45万円×（1セット）＋15万円×（3セット）＋10万円×（3セット）＝120万円（＋消費税）

上記の制度に関するお申し込みやお問い合わせは、SCOPEの下記お問い合わせサイトをご利用ください。

お問い合わせサイト <https://www.scopenet.or.jp/main/contacts/index.html>

—津波災害から背後地を守るために—

和歌山下津港海岸 (海南地区)海岸保全施設整備事業



概成した琴ノ浦水門

行政・防災・経済の中核地となる海南地区

県北部にある和歌山下津港海岸（海南地区）は背後地に人口集積地帯をもち、行政・防災の中核機能や主要交通施設に加え、鉄鋼・電力・石油精製などの世界的シェアを誇る製造企業群が集積しています。このエリアは南海トラフで発生する地震が今後30年以内に70%～80%程度の確率で発生すると予測され、津波襲来による甚大な被害で地域経済だけでなく世界経済に与える影響も大きいことが予想されます。津波災害から人命、財産、地域の諸機能を守るため、和歌山下津港海岸では2009年度から海岸保全施設整備事業が進められ、護岸と防波堤の補強・嵩上げ、津波防波堤や津波対策水門の設置を組み合わせた事業が展開されています。

この事業については以前、本誌35号（2014年6月）で取材を行いました。現在は、護岸、水門および津波防波堤で構成する沖側防護ラインの整備が最終段階に差しかり、今年（2018年）度中の完成を目標に琴ノ浦水門取付護岸の工事が進められています。また、2016年度からは湾奥部に位置する施設の整備に着手し、現在、日方水門や取付護岸等の工事が本格化しています。今回は、この琴ノ浦水門と日方水門の現場を訪れました。

琴ノ浦水門コンクリートのひび割れ対策

2016年に完成した琴ノ浦水門は、柱高30m、径間長30m、扉体高9.5mの日本最大級クラスの水門です。

水門本体のコンクリートは、底版、堰柱、

【お話を聞いた人】

近畿支部

支部長 齋藤 輝夫さん

和歌山支所

調査役 國重 康弘さん

テクニカル・エキスパート 瀬角 明さん

門柱および操作台で構成され、底版は厚み4mの広がりのあるスラブ、堰柱・門柱は最大幅5mの壁または柱状で、すべて大断面のコンクリート部材、マスコンクリートです。

マスコンクリートは大塊状に施工される質量・体積等が大きなコンクリートのことで、分厚いため、コンクリートの表面部と内部に温度差が生じやすく、温度応力によるひび割れが発生しやすい特徴があります。このためコンクリートのひび割れ対策として、底盤部と琴ノ浦側堰柱にはパイプクーリングという方法が採用されました。パイプクーリングはあらかじめパイプを設置した型枠内にコンクリートを打設し、打設後にパイプ内へ水を通して内部からコンクリートを冷やし、温度上昇を抑制する方法です。

「元設計ではすべての堰柱・門柱にパイプクーリングを実施する計画でしたが、実工程では船尾側堰柱・門柱と琴ノ浦側門柱は気温の下がる時期での施工となったので見直しを行いました。温度応力解析を実施して、パイプクーリングで冷却するよりも内外の温度差を小さくする保温養生を行うほうが有効であるという判断に基づいてメタルウォーマーを採用しています。メタルウォーマーは熱伝導率が木製型枠の1/3以下で保温性に優れています。通常の鋼製型枠内部に発泡スチロールを取り付ける構

—現場からの声—

支部長 齋藤 輝夫さん

「近畿地方整備局和歌山港湾事務所は、地域を支える事業、命を守る事業、きれいな海を守る事業など様々な事業を実施されています。今回もその一つで、地域にとって重要な事業です。SCOPE 近畿支部は現地の施工管理が主ですが、和歌山支所と連携して課題を解決し、情報を共有して安全・確実に事業を進めることができるように、公共工事にかかわる一員として適切な施工と優れた品質の確保に取り組んでいきたいと思っています」



後列左から、調査役の國重さん、支部長の齋藤さん、TEの堀田さん、田邊さん、葛西さん
前列左から、TEの箱田さん、瀬角さん

【DATA】

事業内容

護岸（改良）：6.3km
津波防波堤：0.6km
水門：6基



日方水門工事の現場

造のもので、使用の際に通常と異なる注意点はありますか」（調査役 國重さん）

また、躯体工は重要コンクリート構造物としての安全性と信頼性の確保・向上のために「テストハンマーによる強度推定調査」と「コンクリート構造物のひび割れ発生状況の調査」が実施されました。

「コンクリートの品質管理については、品質向上のためコンクリート受入れ試験の立会頻度をほぼ100%実施するとともに、過密配筋部のコンクリート充填状態を可視化するために透明型枠を使用し、確認しています」（調査役 國重さん）

「日方水門」基礎杭の打設工事

もう一つの取材現場、日方水門では水門を支える基礎杭の打設工事が行われていました。鋼管杭は新日鐵住金の鹿島工場で製造したものを大阪の泉大津港まで海上輸送し、そこからは陸送で運搬。鋼管杭の全長は49.5mあり、現場で4本の鋼管杭を3箇所継手溶接を行い1本の鋼管杭としています。

「7月9日から13日にかけて試験施工を行い、支持力算定式を定め、許容支持力10402kNを算出しました。実施工では所定の深度で許容支持力以上の支持力を確認しています」（TE 瀬角さん）

鋼管杭などの材料確認は30%以上の立会頻度で確認しています。なかでも大事なのは継手の溶接で、この確認検査は毎回行われています。

「大きな騒音や振動が発生する打撃方法ですので周辺環境に配慮して施工を行っています。現場の近傍で騒音測定をしていますが、規制値内で抑えています。この工法のほうが早く、コストも安く施工することができます」（調査役 國重さん）

「杭打ち機の中にラムという15tの重しがあり、それを落下させて杭を打撃します。落とす高さを8レンジで切り替えることができ、一番低いのが16cm、最高で1.6mです。杭の施工精度を確保するために、杭の半分くらいまでは落下高を抑えて打ち込んでいます。一番気をつけているのは杭芯をずらさないことと、安定してから支持層までしっかり到達したかを確認することです」（TE 瀬角さん）

一期工事では、全部で45本の杭を打つ計画で、取材時は14本目を打設しているところでした。8月下旬にはすべて打設する予定とのことです。取材した7月下旬の最高気温は35℃以上。暑さ対策として現場詰め所のクーラーの設置やライフジャケットに保冷材を装着するなど体調管理への対策は行われていますが、連日の



基礎杭の打設状況

猛暑の中で働く現場の方々の苦勞が身にしみてわかりました。

琴ノ浦取付護岸が完成すれば沖側防護ラインが連続して形成され、襲来する津波に対して一定の防護効果を発揮できる環境が整います。また、市街地に近く、事業効果の早期発現が期待できる湾奥部の施設の工事にすでに着手しており、現在は築地護岸や日方護岸の工事にも本格的に着手しています。



VOICE

海南市役所 総務部 危機管理課
課長 尾崎 正幸さんにお話を伺いました。

People who create port and airport.

「海南市役所は昨年11月から高台に移転しました。以前の場所は浸水区域に入っていたことや、建物自体が建設してから50年以上経っていたこともあり、いざ災害が起こった時に私たちが対応できないということがあってはいけなと移転しました。海南市では防災対策として市民訓練に力を入れていて、毎年、南海トラフ地震とそれに伴う津波を想定した市民一斉訓練を行っています。それ以外にも、沿岸部の方々は津波、山間部の方々は土砂災害にといったように場所によって危険度が高い災害を想定して、各地域の特性に応じた訓練も行っています。まず訓練の日を決めると、その3ヶ月くらい前から研修を始めます。市民の方に参加していただいて、『ここはこんな地区です。こんな災害の危険があります。皆さんはどう考えていますか?』ということを話し合います。また、安全な避難ルートを皆さんで考え、実際にそのルートを歩いていただくということも行っています。海南市は約100km²で東西に長い地区なんです、人口でいうと3割くらいが海南駅周辺に集中しています。企業もありますし、病院や学校もあります。ただ、浸水エリアであるため、新たにそこで何か新しい事業を行っていくということが難し

く、これから衰退していく可能性が高かった地域です。しかし、この整備事業のおかげで安全性が向上するため、これからこの地域を都市機能が集中する

ような場所にしたいと考えています。市ではこども園の建設に加えて新たに図書館などの交流施設をつくる計画をしています。まずは、公共からそういう投資をさせていただいているところですが、今後整備が進んで市民の方の安心度が上がれば、新たな民間企業の参入も期待できるではないかと思っています。琴ノ浦水門が完成して、これからは市民生活の中でもよく目に入る場所の水門や堤防の整備に入っていくと思うんですが、そうすると今までなかったものがどんどん大きくなっていくのを自分の目で確認できるので、皆さんの安心感もかなり上がっていくと思います。この事業が完成する日が待ち遠しいです」



海南市役所 総務部 危機管理課 課長 尾崎さん

取材・文：(株) ホライゾン

SCOPE からのお知らせ

◆ 平成 31 年度 研究開発助成公募のお知らせ

(一財) 港湾空港総合技術センターは、港湾分野及び空港分野における技術研究開発と開発技術の普及を目的に、平成13年度に研究開発助成制度を創設しております。当制度により、港湾、海岸及び空港の建設・維持管理事業の発注及び施工に係る技術及びシステム等に係る研究課題を対象に、大学、高等専門学校及びこれらに付属する機関等の研究者及び研究グループ、又は原則として法人格を有する民間企業等の研究者及び研究グループ等が行う研究開発に対して助成を行っております。

【助成金額、期間及び件数等】

1. 助成金額：200 万円以内 / 件
2. 助成期間：1 年間
3. 助成件数：5 件程度
4. 公募締切：平成 30 年 11 月 30 日 (消印有効)

【研究課題等】

(1) 指定課題

- ① 港湾、海岸及び空港の施設の健全度評価に関する研究
- ② 港湾、海岸及び空港における大規模災害発生後の対応に関する研究
- ③ 港湾、海岸及び空港における技術の伝承・人材育成に関する研究
- ④ 港湾、海岸及び空港におけるICTを活用した生産性向上に関する研究
- ⑤ 洋上風力発電に係る施設整備・維持管理に関する研究

(2) 一般課題

- ① 公共工事の入札・契約制度に関するもの
- ② 情報化技術によるライフサイクルマネジメントに関するもの
- ③ 品質確保、環境保全、労働安全衛生に関するもの
- ④ 建設マネジメントに関するもの
- ⑤ 公共工事コスト縮減対策に関するもの
- ⑥ 建設副産物リサイクルに関するもの
- ⑦ 施工の合理化・自動化に関するもの
- ⑧ 公共施設の維持・管理に関するもの
- ⑨ その他、当センターの目的に合致するもの

※募集内容の詳細は、当センター HP でご確認ください。

皆様のご意見ご感想をお待ちしております。



一般財団法人 港湾空港総合技術センター

U R L : <http://www.scopenet.or.jp>

本 部：〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3 - 3 - 1 尚友会館 3 階
代 表 T E L : 03-3503-2081 F A X : 03-5512-7515

※ 本誌は、環境にやさしい大豆インクで印刷しています。